

年頭にあたって



ご挨拶

富山薬窓会 会長

稲田 裕彦[㊟]

令和7年、2025年の新年となり、私が「遠久栄」102号にて富山薬窓会会員の皆様に年頭のご挨拶ができますこと大変うれしく思います。

去年は元日の令和6年能登半島地震に始まり、能登半島はもちろん富山県内でも私自身、人生でも感じたことのない、強い揺れを体験しました。人的、物的被害は甚大で、生活インフラ、交通網の寸断にもかかわらず、石川、富山県内の各医療機関、薬局・薬店では揺れが特にひどかった地域を除き比較的速やかに復旧がなされたと聞いています。一方、日本の医薬品産業集積地、富山県の医薬品工場では、配管、建物、立体倉庫等にダメージを受け、復旧に半年以上かかったところもあったとのこと。ひどいことに、能登半島では復旧が佳境に入ろうとする矢先の9月の豪雨により、さらに被害が拡大し、まだまだ支援が必要な状況です。地震、豪雨によってご家族を亡くされた皆様へのお見舞いを申し上げますと同時に、一日も早い復興を強く願います。

富山大学薬学部附属薬用植物園が昨年8月にリニューアルオープンしています。薬用植物園は1923年、官立富山薬

学専門学校の時代に、富山市内の神通川廃川地に設置されたのが始まりで、約45年前に現在地の富山市杉谷に移っています。リニューアルにあたり富山薬窓会としても植物園への害獣被害を防ぐための新しい防護柵設置を中心に、支援を行っております。開園100年を迎え、開かれた薬用植物園をコンセプトに平日には一般開放され、構内は歩きやすい環境が整えられています。それぞれの植物の解説はQRコードで読み込めるようにし、多くの人に漢方薬やハーブのもとになる植物に親しむことができるよう随所に工夫が見られます。私も開園セレモニーに参加させていただき、園内をご案内いただきました。ウコン、カモミールなど親しみやすいハーブもあって短い時間でしたが、楽しく見学することができました。私が薬学部生だった40年前にこんな施設があれば、薬用植物についてより身近に楽しく学べたのではと、大変うらやましく思いました。

薬学部も昨年130周年を迎えました。富山薬窓会もそれに匹敵する歴史をもっています。一方、ここ最近の学生、卒業生のものの考え方の大きな変化を考えますと100年は大げさにしてもあと20年、30年、富山薬窓会活動を継続・活発化させるためには薬学部の発展と会員同士の交流という大目的は堅持するにしても、デジタル技術を活用しつつ、富山薬窓会のあり方のコンセプトを練り直さなければならないと愚行するところであります。

以上、会員のみならず、ご家族のみならずのご健勝とご発展を祈念しつつ、年頭の挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

富山大学 薬学部長

松谷 裕二

新年を迎え、富山薬窓会会員の皆様方におかれましては、益々ご健勝、ご活躍のことと存じます。日頃から、富山大学薬学部の教育研究活動にご理解とご協力を賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。

薬学部長、学術研究部薬学・和漢系長を拝命して、早くも2年目の終盤に近づいています。1年目は何も分からず暗中模索で、ただただ目の前のことに対応するだけで精一杯でありました。1年一回りして2年目に入ると、繰り返しの事柄も多くなり、少しだけですが落ち着きも生まれつつあるように感じています。引き続き、薬学部と薬学・和漢系の発展に貢献できるように、気を引き締めて参りたく存じます。

薬学部は創立130周年、薬学部附属薬用植物園は設置100周年を迎え、令和6年8月10日に記念式典を挙げるこ

とことができました。齋藤滋学長、井上将彦理事・副学長、早川芳弘和漢医薬学総合研究所所長、稲田裕彦富山薬窓会会長をはじめ、ご来賓の方々ならびに多くの関係各位のご臨席を賜りましたこと、改めまして厚く感謝を申し上げます。同日に薬用植物園のリニューアルオープン、テープカット、見学会も実施して、酷暑の中ではありましたが、薬学部と附属薬用植物園の新たな一歩を踏み出したことに、大きな喜びを感じました。また、コロナ禍により2020年から中断されていた薬学部・和漢研教授会の合同忘年会が、2024年12月17日に久しぶりに執り行われ、オックスカナルパークホテルで親睦交流が実現したことも大変嬉しく思いました。

今年度から新入生(1期生)を迎えた地域枠入試に関しては、次年度入学志願者が30名ということで、10名の定員枠に対して倍率が3倍となりました。昨年度の第1回入試(志願者17名)から大幅に増え、熾烈な競争となりましたが、優秀な県内高校生10名を合格として2期生を迎え入れる運びとなっています。富山県内で活躍する先導的薬剤師を育成できるよう、地域創生型カリキュラムを通じた教育に注力して参ります。

どうか引き続き、富山薬窓会の皆様のご指導ご鞭撻を願いますとともに、皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げます。



ご挨拶

富山大学 学長

齋 藤 滋

昨年は富山大学薬学部創立130周年、薬用植物園100周年と節目の年でした。学内外から多くの方に参加いただき、薬学部をアピールできたと思っています。改めて富山大学薬学部の歴史に触れ官立薬学校の第1号である事や、多くの先輩の方々が全国で活躍されている事を知りました。今後とも益々、発展いただきたいと願っています。

皆様に知っていただきたい、これからの施策について述べさせていただきます。国は急激な少子化による教育力の低下を防ぐため、質の高い大学院教育特に博士後期課程での高度人材育成に梃取りしました。富山大学薬学部においても、博士課程を魅力的なものにし、より多くの学生に進学していただけるようになる事を期待しています。また製薬企業等においては、博士人材の雇用促進ならびに待遇改善に取り組んでいただきたいと思います。大学院博士課程は研究者育成のみならず、イノベーションを生み出す人材として産業界で注目されていますので、学生の意識変革、教育内容の変革、企業の意識改革を同時に進める必要があります。

少子化対策の2つ目のポイントは、外国人の留学生受け入れ増と、国内から国外への留学の増です。2040年までには大学の学生の30%を留学生を占める事が、国立大学の目標値として掲げられています。その一環として本学薬学部では、スイスパーゼル大学との交流を進めています。本年は3名の大学院生を富山大学にお迎えして両大学の交流を深める事が出来ました。本学からも2名の大学院生が、パーゼル大学を訪問しました。このような取り組みが、どんどん発展していく事を強く願っています。また、欧米以外にアセアン諸国との交流も深めていただきたいと思います。

富山大学では「伝統医学」をグローバルに社会実装させるプロジェクトを建ち上げています。和漢医薬学総合研究所(和漢研)は全国で1つの伝統医学の研究所です。アセアン諸国の大学連携に対して、伝統医学は本学の大きな強みとなります。しかし、伝統医学の課題として、これまでは経験が主で十分な科学的エビデンスが得られていませんでした。そこで、科学的臨床的エビデンスを証明するために医学部、附属病院ならびに製薬企業との共同臨床研究を次々に行ない、富山大学の業績をアセアン諸国の大学と連携し、世界に発信していこうとしています。

このように富山大学では数々の取り組みを行っていますが、本年が富山大学薬学部の益々の発展の年となる事を記念して巻頭言とさせていただきます。



2024年度の感謝

副学長(地域産業創生・附属図書館長)
富山薬窓会 副会長

酒 井 秀 紀^⑦

第72回卒業生の酒井です。新しい年を迎え、富山薬窓会会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。皆様には、日頃より、薬窓会の運営ならびに薬学部の教育研究に対し、格段のご配慮とご支援を賜っており、改めて厚く御礼申し上げます。2024年度に私が関係したイベントで、感謝の気持ちでいっぱいになった2つについて紹介させていただきます。

まず、田村科学技術振興財団(以下、田村財団)様についてです。田村財団は、富山県の産業の発展と福祉の増進に寄与することを目的として1984年に田村四郎氏(元 富山薬窓会会長、第39回生)が私財を投じて設立されました。2003年に四郎氏が他界され、その後ご夫人の良枝氏が理事長を引き継がれました。本学薬学部は、教育・研究の推進において、長年にわたり田村財団に多大なご支援をいた

だしています。そのなかで、2006年からは田村財団の全面支援による特別講義「薬学経済」(薬学部4年次生向け、毎年15回)がスタートし、これまでに薬窓会の先輩方をはじめ、社会で活躍されている多くの方々をお招きしています。田村良枝理事長は毎年、杉谷キャンパスでの開講式と閉講式で受講学生を激励くださっており、今年度の講義の際もお元気でした(写真1)。しかし大変に悲しいことに2024年10月23日に急逝されました。これまでの長年にわたる温かいご支援とご尽力に深く感謝を申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。なお今年度の初回



写真1. 田村良枝理事長と松谷薬学部長(2024年4月12日、薬学経済開講式)